

発行者 弥生会  
 行務部 弥生会事務局  
 〒740 0012  
 山口県岩国市元町1丁目1番17号201  
 ☎0827(30)5677  
 FAX0827(30)5677  
 http://iwakuni-yayoi.jimdo.com

# 季刊 やよい



市民の幸せのため

## あすの岩国はこう

### 市議の皆さんに期待する11点

岩国市議選当選の皆様おめでとうございます。今後4年間、岩国に住む日本国の有権者によって選ばれた議員であることに誇りと自覚を持ち、市のためしっかり活動していただけるよう期待しています。弥生会広報部はどんな岩国になれば市民が幸せかを考えました。参考にさせていただければ、うれしく思います。

#### プ口集団で市役所改革を

今夏の豪雨で岩国は深刻な被害を受けました。今後も異常気象による未曾有の災害が起きる可能性があります。防犯担当者が地理や地域特性、危険地域等を把握していなければ確な判断ができません。専門性を備えた長年の経験、実績が重要です。

医療スタッフ不足で病床はフル稼働してならず、救急車を呼んでも受け入れてもらえず遠方の病院に回されるケースがあります。さらに今夏、豪雨被害を受けた別の中規模病院は外来のみで入院受け入れを中止しています。市内の医療機関では医師の高齢化が進み、後継者が課題になっています。特に産科は3病院のみ。医師不足はさらに深刻化しそうです。そこで、医学系学生に市内医療機関に務めることを条件に奨学金支援して医療過疎地にならない対策をとって市民の安心を担保してください。

電子化で行政事務は省力化された一方、専門性を要する業務が増えています。業務は多岐に亘るため、多部門を経験することも必要だと思います。各分野のエキスパート、プロフェッショナル育成はさらに重要です。公務は基本的にサービス業で市民がお客様。企業と同じくコスト意識を忘れず仕事してください。意欲を持つ職員を伸ばす市役所改革を期待します。

医療過疎地にならないために  
 念願叶い、愛宕山に独立行政法人国立病院機構岩国医療センターが開院し、利便性も増して地域医療の中核となっています。しかし

市内15歳未満人口は平成34年に3千人減、49年に7千人減になると予測されます。中国5県や全国と比べても人口減少、高齢化はハイスピードで、対策は急務です。

(1) 企業誘致で雇用増やそう  
 臨海工場群のさらなる発展を期待する一方、企業誘致で雇用を増やすことは喫緊の課題です。国内

で企業誘致に成功した都市の姿勢は「他と違うことをする」「外部に丸投げしない」「専門家の意見を聞かない」「まずやってみる」「すぐに実行に移す」「おおらかに」でした。岩国は歴史や文化、海・山・川の自然に恵まれ、豊かな水や錦帯橋を代表とする観光資源に恵まれ、気候風土も穏やか。広島に近く、米軍、自衛隊基地があり、空港や港、鉄道、高速道路が整備され、他都市にないものが揃っています。こうした地域性を活かして、独自視点による地域開発が成功につながります。後はどれだけやる気を結集するか。次代を担う若い人たちの意欲や意識が高まる方策を市長をはじめトップが積極的に推進してください。

(2) 街コンを開こう  
 結婚しない男女が増えています。市主導で「街コン」を開き、独身男女に出会いの場を提供してください。同級生や職場だけで結婚相手を見つけることは難しいのです。堅苦しくない出会いの場を設け、岩国の良さもアピールしながら周辺地域や大都市からも独身男女を募ってほしいと願います。

(3) 出産適齢期を告知して  
 結婚年齢が上がり、第一子出産が30歳以上というケースが増えています。高齢出産は母胎にも胎児にもリスクが高まるため、35歳前後に第一子を出産すると第二子を望まないようです。人生設計で子どもを考えるなら仕事一段落して出産を考えるのではなく、出産

適齢期に出産・子育てを行い、その後仕事再開する選択が賢明であり、母子にも健全です。リスクの高い高齢出産を選択するより、安全な出産ができる適齢期を中高生にもしっかり告知し、自分の心と身体を大切に正しい知識を教える必要があります。

(4) 再就職をサポートして  
 出産、育児休業後、復職または新たな職場に就職するため再就職支援策を講じてください。育児休業明けに復職するハードルは大きく、看護師等、専門性を有する職業なら、大きなギャップとなります。育休中は3か月に1回程度、元の職場や看護学校、専門学校、商議所等で講習を受けられるよう支援し、託児もあれば特に医療従事者の復職を促すことが可能になります。子どもの成長後、再就職を希望する女性には再就職プログラム等の講習会を開き、再就職を支援することも必要です。

(5) さらに子育て支援  
 市は子育て支援に力を入れていきます。妊婦健診や出産一時金、子ども医療費助成制度、予防接種の補助等は他市と比べ、充実していますが、なお一層充実させてください。子どもが一定年齢に育つまで母親(場合によっては父親)が家庭で子育てすることが子どもの心身の発育や成長安定にとって望ましいことです。家族・親族の支援を受けられない場合、母親が孤立しないよう支援してください。保健師や母推による家庭訪問、保

健センターや供用会館等での乳幼児学級、図書館での乳幼児向け読み聞かせ等もありますが、子育て講座の託児など受講しやすい環境を作る必要があります。昔ながらの近隣住民による見守り、声かけも必要でしょう。公園や供用会館で定期的な子育てサークルを開くなど母親同士が親しくなれる機会を増やして孤立化を防ぐ手立てを幾重にも張り巡らす施策も必要です。早期出勤や帰宅が遅くなる親のため保育施設や小学校の送り迎えや二次保育の支援も必要です。

交通手段整備と歩こう運動  
 岩国は空港、新幹線駅、JR駅、高速バス、高速道路もありますが、接続性に課題があります。バス不採算路線は便数が少なく、乗客も通学生が高齢者がほとんどで夜間は乗客が少ない便もあります。オンデマンドバスを導入して気軽に使える交通手段の整備を急いでください。

都会人比べて市民の歩数は格段に少ないようです。市役所通勤者は原則公共交通機関利用とし、健康な市民も公共交通を利用する運動、一日1万歩運動によって校区内の通勤や買い物は歩いて行くよう奨励し、市民の健康増進を図ってください。医療費抑制にもつながります。歩道や自転車道の整備、安全指導も必要です。

市長、市職員、市議、市民が共にやる気と熱意を持てば、より良い岩国になります。どうかよろしくお願いします。